

2025年度 学校評価

1. 教育目標

- ・元気で明るく逞しい子ども
- ・人に優しく、自分が好きな子ども
- ・様々なことに興味関心を持ち、探求心のある子ども

2. 目標達成のため本年度の重点

【健康を守る保育】

- 園看護師や給食さんが講師となって、職員や子ども達に手洗いの大切さや食事の大切さについてお話しする機会があり、それが子ども達にとって良い刺激となり、自ら気をつけようとする姿が見られた。
 - 毎日の視診をしっかりと行い、子ども達の健康状態や心の常態について職員同士伝え合い共有することができていた。病気の時の出席・欠席については各ご家庭への協力が欠かせないので、引き続き園での様子や、病児保育は行っていないこと、お互いにうつさないようにできることをしていただけるように協力してもらいようにしたい。
 - 自由遊び中の衝突が多かったように感じる。遊ぶ場所の工夫はもちろんの事、子ども達には引き続き継続した感覚統合や身体のコントロールなどを取り入れた活動を意識していきたい。
- 毎日の視診の他にも、休み明けの登園の際は保護者から、子どもの体調の様子を丁寧に聞き取り、職員間でも子どもの体調の様子、変化について対応を図れるように情報の共有を図っている。
- 手洗い、消毒を日々しっかり行うことにより、大きく感染症が流行る事もなく、子ども達も元気に過ごせていた。

【異年齢との関わりを大切にする保育】

- 今年で3年目となった以上児・未満児との交流時間「ふれあいタイム」では、子ども達も一緒に活動する時間を楽しみにしてリードする姿や嫌がることなく一緒に活動を楽しむ姿が見られた。また、そのほかの時間でも担当以外の職員に積極的に関わりを持ってくれる姿も増えた。
 - マネリ化しないように担当の先生たちが工夫してくれていたため、今後も子ども達がより異年齢の子と触れ合うためにどうしたらいいのか、できることを職員で話し合っていきたい。
- 以上児、未満児との月に一度のふれあいタイムでは、担当の職員を中心に、前月の反省や良かった点を活かして、子ども達がより楽しめる為に保育を進めることができていた。ふれあいタイムの他の時間以外でも、自ら以上児から未満児に対して、お手伝いやお世話をする姿が多く見られるようになった。

【人権を大切にする保育】

- 職員会議を通して担当以外の子ども達について知ることができ、職員で相談することができたのが良かったと思う。今後も子ども達の様子を共有し、適切な対応が出来るようにしていきたい。
- 子ども達の人権を大切にすることを意識し、気を付けることができていた。お話しできない子どもたちについては職員が前後の様子をよく観察し、他の職員と話し合うなどして、その子の言いたい事に気づけるように丁寧に対応していた。
- 未満児クラスでは、言葉がまだわからなくても「オムツを替えようね」等、場面の切り替え時には、その都度声掛けをし、子どもが心身ともに安心して過ごせるように努めている。昨年度、不適切保育について園内研修を行い自身の保育を振り返る良い機会だった為、定期的に研修を行い、保育者の意識をしっかりと持ち、子ども達が安心して成長できる環境を作っていきたい。

【共に育ちあう保育】

- 異年齢で過ごす中で、自然と年長さんにあこがれを持ち、そのために頑張ろうとする姿が見られた。
- 行事を通して少し苦手なことにも挑戦し、頑張った末に成功したことで自信をつける姿が見られた。またできたことを友達に「こうするとできたよ」など声を掛け合う姿も見られた。年長児は「努力したからできた」という気持ちが強く、それが次の意欲へとつながっていた。
- 日々の保育の中で、保育者が子ども達一人ひとりの良い所を自然と伝えていると、周りの子ども達もよく聞いていて、「〇〇くん、すごいね」「こんなこともできるのだね」等、自然とお友達同士で伝えている姿が見られる。同じクラスの仲間として認め合い、その子の良さ、頑張りを子ども達自身から気づけるように今後も保育していく。
- 未満児クラスの中でも、自分より小さいお友達に対してお世話をし、自ら優しく声をかける姿が多く見られた。自分より大きいお友達の姿を見て、同じことをやってみたくと主体的に動き、成長を感じることができた。

【保護者と共に進める保育】

- 以上児は連絡帳でのやり取りを週に一回にしたので、以前よりも幼稚園の様子を伝える機会が減った為、それに代わってお迎えの時に少しでも様子を伝えられるように今後も意識していきたい。
- どの保護者に対しても同じ対応を心掛け、丁寧にお話していくように心掛けられていた。
- 毎日の連絡帳の他にも、子育てで悩んでいる保護者や気になる家庭には、丁寧に声掛けをし、相談しやすい、されやすい雰囲気づくりに努めた。

【地域とのかかわりを大切にする保育】

- 山車行列では各団体と共に地域の活性化に協力することができた。
- グループホームへの慰問が今年度は無くなり残念ではあったが、高校生と音楽を通して触れ合いを楽しむことができた。
- 地域のクリスマス会や木育広場、ハロウィン、キッズパフォーマンスなどの多くのイベントごとに職員が参加し、スタッフとして貢献し、地域の方との交流を図ることができた。
- 小学校や保健師さん療育機関などとの連絡をとり、対象となるお子さんの情報共有をし、今後の対応を話し合うことができた。
- 園外散歩や、遠足などで、地域の方に会う際は挨拶やマナーを子ども達に伝えながら、しっかり行う事ができた。ハロウィンやクリスマスイベント、ひな祭り等の地域の行事に子ども達の作品を飾ってもらい、地域との関わりを持つことができた。

3. 評価項目（5段階評価）

評価項目	結果	内容
保育の計画性	4	<ul style="list-style-type: none">● 年間計画を意識することはもちろん、子ども達の現状をよく観察し日週案を立てることができていた。またマンネリ化しないように前年度の保育を見直したり、子ども達の現状に合った保育を計画することができた。● 各行事での計画を早めに職員に共有し、ゆとりを持って保育に当たることができた。● 避難訓練では子ども達に分かりやすく伝えることを心掛けたおかげ

		<p>で、子どもたちに避難の仕方を浸透させることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ・各クラスも期日までに週案を提出し、週案にそって保育を進めることができた。 ● ・園内研修にて、各学年で重点的に取り組む内容を話し合ったので、一つの目標として、保育計画に練りこむことができた。
保育の方法と展開	4	<ul style="list-style-type: none"> ● 絵本は各先生の好みに偏らないような選択を心掛ける必要がある。また、昔話などももう少し意識して取り入れる必要がある。 ● 現状に満足することなく、さらなる研究を頑張りたい。また導入と展開を意識した保育を心掛けていきたい。 ● 子どもの現状に合った取り組みを日々取り入れることができていた。 ● 自由遊びをさらに豊かにするために、職員通しが話し合い、環境設定を準備することができたので、今後も続けていきたい。 ● クラスの子ども達の様子、雰囲気を見ながら、職員配置を考え、個別に対応し、保育者間で声を掛け合い、臨機応変に保育を進めることができた。若手保育者も自信を持って保育に入り、経験年数のある保育者の保育を見て参考にしながら、自身の保育に取り入れる事ができていた。
保育教諭としての資質向上 能力・良識・義務	4	<ul style="list-style-type: none"> ● 園内研修やキャリアアップ研修、町主催の研修、オンライン研修などを受け、現状に満足することなく研究することができていた。今後も努力を怠ることなく技能や知識を身に付けて行きたい。 ● 園児のことや保護者のことなど園で知った情報を外部に漏らさないということは徹底できている。引き続き気を付けて行きたい。 ● 会議や研修で保護者との適切な接し方、子ども達の人権についてなど話し合う機会もあり、今後も適切な距離を保ち接していけるようにしたい。 ● 職員同士苦手なことをフォローし合い保育に当たることができた。 ● ・オンライン研修や、実践研修など積極的に参加し、自己研鑽に努めることができた。特に、他の園を知る事は、新しい保育方法の発見に繋がるので、積極的に研修に参加していきたい。 ● ・若手保育者も多いので、年齢の近い保護者と友人のような話し方、関わりになってしまわないように、保育者として一人ひとりが、自覚を持ってより気を付けていく必要がある。
保護者への対応	4	<ul style="list-style-type: none"> ● 子ども達の家での様子や園での様子を伝え合うことができた。十分ではない部分もあるので今後も園での様子を積極的に伝えるようにしていきたい。また各家庭の教育方針や願などを聞き、助言や援助できるところがあれば援助するようにしたい。(要望をすべて聞くということではなく) ● ゆりかごや LINE、連絡帳を使い伝え漏れのないように努めることができた。 ● ・連絡帳では伝わりにくい事は、送迎の際、直接口頭で伝えるなどし、

		<p>子どもの様子を丁寧に伝える事ができていた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ・持ち物など用意が必要なものは、準備期間を考慮し、余裕をもって事前にお知らせすることができた。 ● ・今年度からはいチーズを活用し、写真の販売をしている。ブログで子ども達の様子をお伝えし、好評を得ている。
地域・関係機関との連携	3.5	<ul style="list-style-type: none"> ● 小学校の生活発表会や1.2年生の生活科の授業に招待してもらったおかげで、年長児は小学校に通うことを前向きにとらえることができたのでとても良かった。また小学校の先生の園訪問もあり、さらに期待に胸を膨らませていた。 ● 高校生の音楽の授業の一環で楽器演奏を一緒にすることができた。園訪問してもらったことで楽器の楽しさを知り、高校生との触れあいも楽しむことができた。 ● 保健師・発達支援センターとの園訪問・面談を通して対象児についての共通理解を図ることができた。今後も情報共有を図り、よりよい手だてを見つけていく努力をしたい。 ● ・保健師や児相等、関係機関と連携しながら対象となる子どもの情報共有に努めることができた。 ● ・ハロウィンやクリスマスイベント、ひな祭りでは、子ども達の作品を飾らせてもらい、お散歩で見学に行く事ができた。保育者もイベントにはお手伝いとして参加することができた。
研修・研究	4	<ul style="list-style-type: none"> ● 園内研修を通して自分の保育を振り返る良い機会になった。また他の保育士の保育を見ることで刺激されるところもあったように思う。 ● 他園の園見学や様々な研修で学んできたことを職員会議や園内研修で伝え合うことで、自分たちの保育の振り返りや保育にどう生かしていくかを話し合うことができとても良い刺激になった。 ● ・園内研修では、活発な意見のやりとりが見られ、園として統一した対応の確認や情報共有を行う事ができた。 ● ・園外の研修にも積極的に参加し、園内研修などで発表する場を設けていけば、発表する保育者の学びや自身にもつながっていくと思う。
安全管理	4	<ul style="list-style-type: none"> ● 子ども達が安全に過ごすことができるようにどうしたらいいかを話し合い改善していくことができた。 ● 引き渡し訓練では、各ご家庭の協力のもと、昨年よりもスムーズに行うことができた。また実際に小学校に避難することになった際には、引き渡し訓練の成果も見られたので、来年以降も引き渡し訓練に力を入れていきたい。 ● 警察や消防を招いての避難訓練のおかげで子ども達も避難訓練の大切さをより実感し、新年に取り組む姿が見られた。また職員同士の連携もさらにスムーズになってきているので引き続き取り組んでいきたい。 ● 子ども達に避難訓練について話す際、より分かりやすくなるための

		<p>工夫をしていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ・毎月の避難訓練の前には、紙芝居やお話しなどで子ども達に分かりやすく説明をしている。回数を重ねる事に未満児クラスでも、カメのポーズを自らとり、火事の際は口を抑えるなどできるようになった。 ● ・不審者対応では、色々なパターンを想定して、職員が臨機応変に動けるように訓練をしていく必要がある。 ● ・日々の保育では大きな事故・怪我はなかったが、気を引き締めて子どもの動きや危険箇所がないか確認していく必要がある。
--	--	---

4. 2025年度の総評

結果	内容
4	<ul style="list-style-type: none"> ● 研修会（オンライン研修含む）に積極的に参加し、その結果を会議や園内研修を通して共有し、よりよい保育のために話し合うことができた。 ● 職員会議などで話し合ったことをすぐに実行に移し、教材の準備や環境構成を行い子ども達に提供することができた。 ● 警察や消防の協力のもと避難訓練が数回できたことは、新たな課題の発見繋がり、すぐに改善することができた。 ● 昨年の課題でもあった「職員間の報連相の充実」はお互いに意識し合い、職員会議や毎日の反省会議に細やかな報告をしあうことで昨年よりも全職員で共通理解することができた。 ● ・昨年度から続けている未満児でのリズム遊びは、毎週水曜日に決め、未満児全員で行うことができている。4月は恥ずかしがっていた子ども、年度末にはのびのび動き参加できるようになり、成長を感じる事ができた。来年度も引き続き続けていきたい。 ● ・園内研修で、各学年で重点的に取り組む内容を細かく出し合い、話し合うことができたので、より細かな目標を職員間で理解し確認することができた。来年度も、各クラスで目標に向けて、年間計画を見直し、子どもの成長発達を伸ばしていく為には、何が必要なのか考え取り組んでいく。

5. 来年度課題

<ul style="list-style-type: none"> ● 研修会への積極的な参加や報告を今後も続けていく必要があり、現状に満足することなくより良い保育のためにひとりひとりが課題を持ち取り組んでいく必要がある。また、職員間のアドバイスやアイデアの交換などの機会をもっと増やしていくようにしたい。 ● 集団生活なので病気の流行は仕方がないが、登園基準など、保護者により理解を深めて頂けるよう伝えていく必要がある。 ● お残りの時間の環境設定では、担当の保育者が内容は考えているが、なかなかその通りにいかない事もあるので、その日の当番の保育者が設定にするなど改善していく必要がある。 ● 自分の今のクラスに満足するだけでなく、次の学年に上がった時のことを考え、一人ひとりの成長に合わせて伸ばせるところを伸ばせる保育計画を考えていく。
